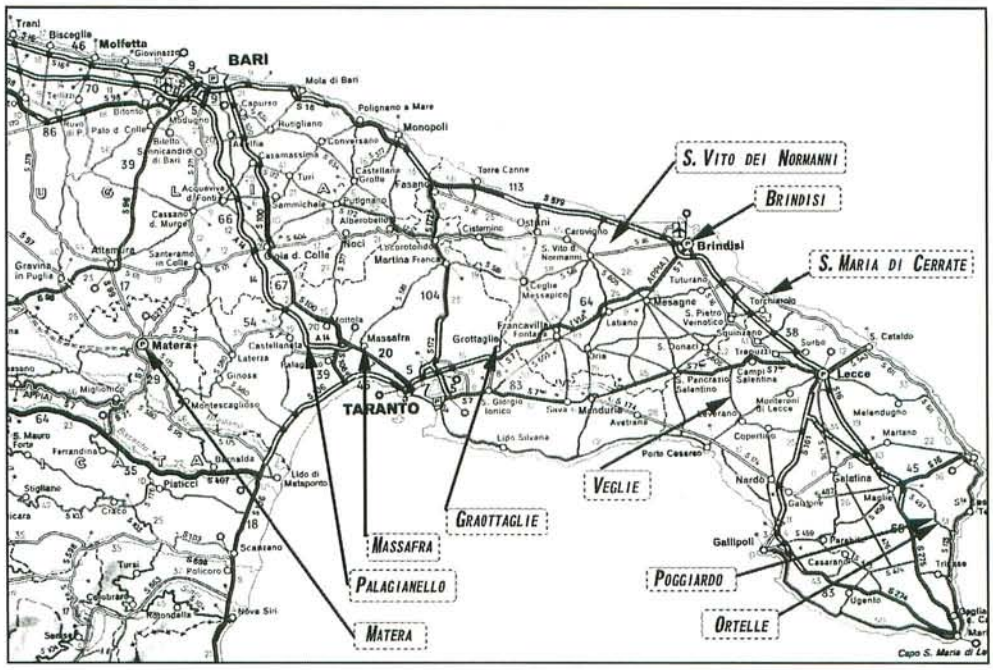
南イタリア中世壁画群 診断調査プロジェクト
研究調査報告書
*2011*年度

宮下孝晴*・宮下睦代**

Analysis-Research Project on the Medieval Cave Churches in South Italy: Report of Pre-field Researches *2011*

Takaharu MIYASHITA * & *Mutsuyo MIYASHITA* **

◇ 第四次予備調査実施日：2011.06.08～06.09　Regione Basilicata
◇ 第五次予備調査実施日：2011.09.15　Regione Puglia
◇ 第六次予備調査実施日：2012.01.11～01.14　Regione Puglia



◇◇◇ 調査地リスト ◇◇◇

No.21 〔*Matera*〕 Chiesa di Madonna delle tre porte
No.22 〔*Matera*〕 Chiesa di S.Agnese
No.23 〔*S.Vito dei Normanni*〕 Chiesa di S.Biagio
No.24 〔*S.Vito dei Normanni*〕 Chiesa di S.Giovanni
No.25 〔*Ortelle*〕 Chiesa della Madonna della Grotta
No.26 〔*Poggiardo*〕 Chiesa di S.Maria degli Angeli
No.27 〔*Brindisi*〕 Chiesa di S.Maria del Casale
No.28 〔*Massafra*〕 Santuario della Madonna della Scala
No.29 〔*Massafra*〕 Chiesa della Madonna della Buona Nuova
No.30 〔*Massafra*〕 Chiesa di S.Marina
No.31 〔*Massafra*〕 Chiesa di S.Leonardo
No.32 〔*Massafra*〕 Chiesa di S.Antonio Abate
No.33 〔*Palagianello*〕 Chiesa di S.Andrea
No.34 〔*Palagianello*〕 Chiesa di S.Gerolamo
No.35 〔*Palagianello*〕 Chiesa di S.Lucia
No.36 〔*Palagianello*〕 Chiesa di S.Nicola
No.37 〔*Grottaglie*〕 近年発見された教会
No.38 〔*Grottaglie*〕 Chiesa di S.Angelo o Casalpiccolo
No.39 〔*Grottaglie*〕 Chiesa in località Gravina di Riggio este
No.40 〔*Veglie*〕 Cripta della Favana
No.41 〔*Cerrate*〕 Chiesa di S.Maria di Cerrate

☆***keywords***: *mural painting, Middle Ages, cave-church, South Italy, conservation*
壁画、中世、洞窟教会、南イタリア、保存

*　フレスコ壁画研究センター長　人間社会研究域　歴史言語文化学系教授
**　フレスコ壁画研究センター客員研究員

現地調査を重ねるにつれて浮かび上がってきた洞窟教会群の実態

～ 南イタリアの洞窟教会に描かれた中世壁画群の診断調査プロジェクト ～

ここに掲載する南イタリア（プーリア州）全21カ所の洞窟教会(chiese rupestri)と堂内に描かれた中世の壁画遺産に関するレポートは、昨年度に続いて実施された今年度の前後3回にわたる現地調査、つまり2011年6月と9月、および2012年1月のレポート記録を整理したものである。したがって、調査地リストの洞窟教会に付されている整理番号は昨年度の報告書《No.01～No.20》を継続して、《No.21》から始まっている。

南イタリアの洞窟教会に描かれた中世壁画群の調査研究プロジェクトとは、金沢大学が日伊共同で取り組んできたフィレンツェのサンタ・クローチェ教会壁画の修復プロジェクトの成功実績に基づき、文部科学省の特別経費を得て、再び国立フィレンツェ修復研究所と連携協力して、2010年度から4年計画でスタートしたものである。

2010年5月、金沢大学人間社会研究域に本プロジェクトの拠点となるべく「フレスコ壁画研究センター」が設置され、人文系、芸術系、工学系、医薬系などの多岐にわたる専門分野の研究員が中世壁画の調査・分析・研究に取り組む画期的な挑戦がスタートした。

壁画の非破壊調査と未来型デジタル・アーカイブの形成を目指す金沢大学チームは、最新のテクノロジーが結晶した日本の小型デジタル機器を（電気設備などのない）荒涼とした南イタリアのフィールドで活用する可能性の追求にも重点をおき、（研究所内ではなく）フィールドでの壁画調査に特化した小型診断機器の開発にも努力している。

拡散光と斜光線による高精細デジタル撮影のほか、GPS記録、二種の3Dスキャナによる空間と壁面の記録、赤外線サーモグラフィ、色差計、水分計、マイクロスコープなどの科学計測機器を用いての分析診断データは、国立フィレンツェ修復研究所の壁画調査チームが実施担当する（絵具層のサンプリングなどの破壊調査を含む）他の調査データと統合され、「文化財保存」「専門研究」「教育と啓蒙」などの目的に応じた新形式のデジタル・アーカイブ（データベース）に記録される。

とりわけ、「文化財保存」の観点から形成されるデジタル・アーカイブは、洞窟教会に描かれた中世壁画の現状記録のみならず、将来にわたって定期的に実施されるであろう診断調査の《症状と経過》を記録し、南イタリアの洞窟壁画が直面している諸症状を系統的に把握することができる、いわば「壁画保存の電子カルテ」の機能を果たせるシステム・フォーマット（Modus Operandi）がイタリアのクルトゥーラヌオーヴァ社との連携協力で開発中である。（Culturanuova S.r.l 代表：Massimo Chimenti）

今年度に実施された3回の現地調査のうち、とくに1月の調査においては、プーリア州文化財監督局のフルヴィア・ロッコ女史(Dott.ssa Fulvia Rocco)のご尽力のお陰で、金沢大学チームが出発前に提出した調査地リストの要望が100パーセント叶えられ、大きな成果を上げることができた。また、ロッコ女史の誠実な手配もさることながら、金沢大学チームの特殊な要望に応えるべく、行く先々で私たち一行を待ち受けてくれていた美術や建築の専門家が労を惜しまず、時間の過ぎるのも忘れて対応してくれたことに心から感謝の意を表したい。

文化行政的には放置されているかに見える南イタリアの洞窟教会も、現地の人々からまったく見捨てられているわけではなく、（ごく限られた人々ではあるが）大きな郷土愛で文化財を守ろうとする人々の手で余命を繋いでいることもわかってきた。遠い極東の日本から南イタリアに遠征していく金沢大学チームとしては、これからも現地との友好的な協力関係を深めながら、危機に瀕している中世の洞窟教会壁画群を人類の文化遺産として長く歴史に記憶させるべく、有意義なプロジェクトを展開していきたい。

Ringraziamento :
Desideriamo esprimere la nostra più sentita gratitudine ai seguenti signori.

■Dott.ssa Isabella Lapi *(Soprintendenza di Puglia)*
■Dott. Fabrizio Vona *(Soprintendenza di Puglia)*
■Dott.ssa Fulvia Rocco *(Soprintendenza di Puglia)*
■Dott.ssa Raffaella Portararo *(Massafra)*
■Dott.ssa Mina Tagliente *(Massafra)*
■Dott.ssa Carmela Barbitta *(Palagianello)*
■Prof. Domenico Caragnano *(Palagianello)*
■Avv. Ciro Alabrese *(Sindaco di Grottaglie)*
■Arch. Enzo Cavallo *(Grottaglie)*
■Dott. Gennachi Nicola *(Veglie)*
■Dott. Cosimo Fai *(Veglie)*

No.21	マドンナ・デッレ・トゥレ・ポルテ教会	Regione　州	Basilicata
Bas.06	Chiesa di Madonna delle tre porte	Comune　市町村	Matera

①地理的位置

グラヴィーナ峡谷を挟んで旧市街地の反対側(東側)に広がる凝灰岩台地の頂上近く、ムルジャ・ティモーネ駐車場から東北に進んだところにある。

②建築に対する所見

教会堂内の空間は、天井をフラットにして、それを半円アーチが支える。各アーチは仕切りの壁柱と一体化するように刳りぬかれ、結果として巨大な4本の柱が堂内を支える構造となっている。東側(平面図の右手)にいちだんと大きな礼拝堂が設けられているが、東向きという礼拝堂の向きからしても、そこが教会の後陣部であったと推測される。教会名からわかるように当初は入口が3つあったが、手前の2本のアーチを含む壁柱が崩れ、現在は教会の側壁全体が開口部となっている。身廊部分の壁面には小さな壁龕が設けられているほか、無造作に数多くの十字(多くはギリシア十字形) が深く刻まれている。

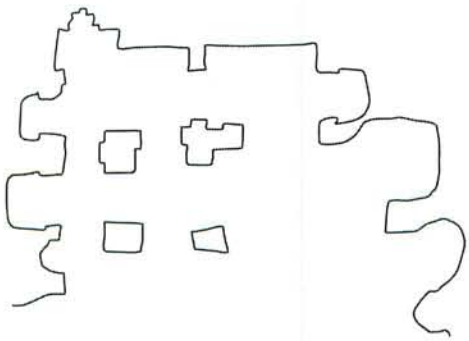
③壁画に対する所見

現在の開口部に面した左後側の壁柱には黒と赤の二重の方形枠に縁取られたギリシア十字形の「十字架」が白地に赤く描かれている。壁画は東側の後陣と北側の壁面に残存している。12-17 世紀のものが混在していて、各画面の年代推定は定かではない。後陣には「デエシス」(キリストと聖母マリア、洗礼者聖ヨハネ)、その左側には「ザクロの聖母」。教会の北側にあたる左側廊の祭壇の上にはもっとも古い年代のものと思われる「受胎告知」と「玉座の聖母子」が描かれていたが、1962 年にドイツ人考古学者 Rudolf Kubesch によってマリアの頭部が2つとも剥ぎ取られて持ち去られた。その右側に「磔刑」がある。

④保存状況

側壁の全体が崩落して開口部が広くなってしまったせいもあり、壁画の保存状態はよくない。風通しがよく湿度は高くないので、壁面にカビや藻類の繁殖はほとんどない。また、後世の加筆が多く、教会建設当初の壁画群の面影は薄い。

平面図



No.22	サンタニェーゼ教会	Regione　州	Basilicata
Bas.07	Chiesa di Sant'Agnese	Comune　市町村	Matera

①地理的位置

グラヴィーナ峡谷を挟んで旧市街地の反対側(東側)に広がる岩山の急な斜面に位置する。

②建築に対する所見

この洞窟教会は9世紀にさかのぼるが、1884年に鉄格子の扉を設置するために開口部のアーチ上端と右側を石積みでふさいだ。その時の記録として、鉄格子の扉の上の石に「ARM　1884」と刻されている。入口から入るとすぐに不定形の広い空間があり、その奥に後陣と壁から刳りだした祭壇がある。入口を入ってすぐの空間は、後陣との関係からして中心軸が部屋の中央を通るはずなので、おそらくは右側壁に設けられているかにみえる3段の階段席は、階段席ではなく、右側壁を奥へ拡張していく際の掘削中であったと考える方が妥当であろう。

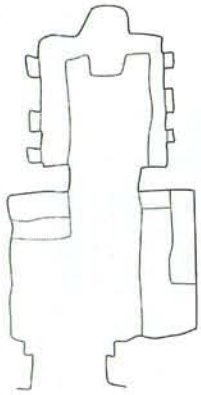
③壁画に対する所見

直方体をした祭壇の前部には白地に赤い「十字架」が青い線の縁取りで描かれている。十字架の背後にX状に交差した線は、磔刑に関連した長槍と先端に海綿をつけた棒ではないかと考えられる。しかし、十字架の形状からして15世紀以降に描かれたものであろう。後陣中央の壁龕には「聖女アグネス」が描かれていたために、サンタニェーゼ教会と呼ばれてきたのであろうが、原画はほぼ完全に剥落し、後世の（あるいはごく最近の）稚拙な加筆で、図像学的に「聖女アグネス」を認めることはできない現状である。「聖女アグネス」の周囲に塗られた青色やオーカー色の枠、下部にみえる赤い線描の唐草模様もまた、かなり後世の、そして稚拙な加筆と判断される。

④保存状況

前述したとおり、建築構造は9世紀にさかのぼることができても、現存する壁画はほとんど後世の加筆である。今後の調査で、下の漆喰層に当初の壁画断片を発見できるかもしれないが、後世の劣悪な加筆も含めて、壁画の保存状況はきわめて悪い。

平面図



No.23	サン・ビアジョ教会	Regione　州	Puglia
Pug.16	Chiesa di S.Biagio	Comune　市町村	San Vito dei Normanni

①地理的位置

N 40° 39'52"/ E 17° 47'45.1"

サン・ヴィート・デイ・ノルマンニからブリンディジ方向へ約10 kmのジャンヌッツォ農園にある小高い凝灰岩台地に掘られた洞窟教会である。近くにはカナーレ・レアーレ（水路）が流れている。

②建築に対する所見

東南-北西を長軸とする細長い長方形の空間（12.65m×4.80m 高さ 2.60m）には、長軸の奥にあたる東南の壁面に小後陣があり、現在は長軸に対して横(北東側)に設けられている扉から入る。同じ北東面には正方形の窓が設けられている。左側壁(北東側)面に僅かな段違いがあり、入口を入ってすぐ（ほぼ正方形プラン)の天井を含めた壁画空間の統一性からしても、もともとは奥がイコノスタシスとなっていて、細長い堂内の空間は2つの部分に区切られていたと推測できる。

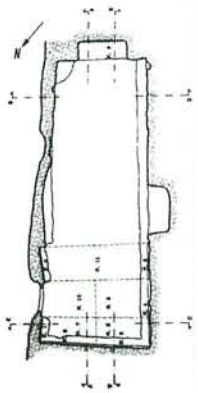
③壁画に対する所見

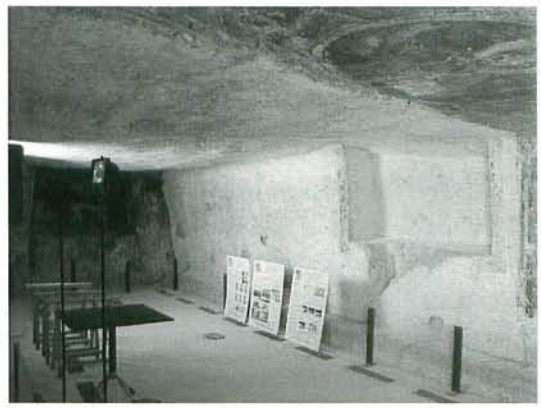
入口扉を入ったすぐ上、天井画の一部に「ダニエル（Diehl)が1197 年に描いた」と白地に黒いギリシア文字の記述があるため、壁画の制作年代は 12 世紀末とされているが、その下の漆喰層にはさらに古い年代の壁画が存在している。プーリア州の洞窟教会に描かれた「キリスト伝」の中で、もっとも完全なものである。天井には「パントクラトールのキリスト」「四福音書記者」「預言者ダニエルとエゼキエル」「受胎告知」「エジプトへの逃避」「神殿奉献」「エルサレム入城」、壁面には入口から反時計回りに「聖アンデレ」「洗礼者聖ヨハネ」「聖ブラシウス」「聖ニコラウス」「聖デメトリウス」「聖ゲオルギウス」「御降誕」「聖シルウェステル」「聖ステパノ」が描かれている。いちばん奥（東南側）の壁龕内に描かれた3聖人および周囲の聖人像は16-17 世紀のものである。

④保存状況

1991 年に訪れた時には、ジャンヌッツォ農園が教会を管理しており、堂内は湿度が高く苔やカビが生え、壁画の保存が危ぶまれたが、2001 年に本格的な調査と修復が行われ、現在はよく整備保存されている。

平面図





No.24	サン・ジョヴァンニ教会	Regione　州	Puglia
Pug.17	Chiesa di S.Giovanni	Comune　市町村	San Vito dei Normanni

①地理的位置

N 40° 38'23.7"/ E 17° 48'18.4"

サン・ヴィート・デイ・ノルマンニからブリンディジ方向へ進み、ジャンヌッツォ農園の手前を右へ折れて2kmほどの位置にある。カファーロ農園の中、ツィート兄弟の所有する納屋から5分ほど歩いたカナーレ・レアーレ（水路）の谷あいにある。付近には小高い岩山に掘られた洞窟がいくつも存在している。

②建築に対する所見

入口の階段は聖堂の長軸（南北）に対して横（西側）に設けられ、身廊部に直接入る。幅1mほどの入口から階段を3段下りると、長方形の空間（7.70m×5.20m 高さ2.30m）が広がり、1本の大きな柱で堂内の空間は2つに分けられている。4つのアーチの支点となっている中央の柱は折れ、5つの石ブロックを積上げて補強してある。また、後陣の前には近年の補強とみられる角柱が平坦な天井壁を支えている。奥の壁には3つの壁龕を設けて後陣としている。中央の壁龕には「デエシス」、その左右の壁龕にはオーカー色の唐草模様で囲まれた大胆な一対の花かごが描かれている。入口右には張り出した幅1.30mほどのイコノスタシスの壁が残存している。入口の左上方には長方形の窓があったが、現在はほとんどふさがれている。

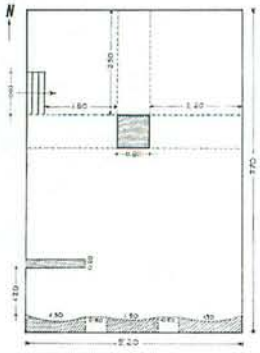
③壁画に対する所見

この洞窟教会の壁画は、同地域に見られるイタロ・ビザンティン壁画群の中でも、とくに質が高い。後陣の中央壁龕には「デエシス」、「大天使ミカエル」の描かれたイコノスタシスの手前の西側壁には（左から）「聖母マリア」「洗礼者聖ヨハネ」「聖クレメンス」が描かれている。なお、円光の周囲に白字で書き込まれた聖人名がラテン語であることから、壁画の制作は12世紀末から13世紀初めと考えられる。（ただし、いくつかはギリシア語の注釈が付されている。）イコノスタシスに描かれた「大天使ミカエル」は、その服装や図像学的特徴が11世紀ビザンティン様式の特徴を顕著に示しており、他の壁画よりも古い制作の可能性がある。後陣の反対側、北側の壁面に描かれた「聖ロクス」と「聖母子」の制作時代はずっと後れる。

④保存状況

個人所有で保存管理が行き届かず、保存状態は非常に悪い。

平面図



No.25	マドンナ・デッラ・グロッタ教会	Regione　州	Puglia
Pug.18	Chiesa della Madonna della Grotta	Comune　市町村	Ortelle

①地理的位置

N 40° 2'2.0"/ E 18° 23'13.9"

ポッジャルドの南約 3km に位置するオルテッレの町の、サンタ・マリア通りにある。

②建築に対する所見

帆形の鐘塔があり、見かけは地上に石を積んで建設された教会のようだが、実際には道路から 2.10m の高さにそびえる凝灰岩塊を掘り抜いて建設した洞窟教会である。正面は切り出した石を積み上げた壁で覆われ、2 つある入口の階段から下りて、地下の堂内に入る。近年の発掘調査で岩塊の周囲が掘り下げられたためだと思われるが、現在は道路との高低差があるため、道路から教会入口まで 2 本の橋が架けられている。(右に転載する 1979 年刊の資料写真(1972 年撮影)を比較参照。)東西を軸とする四角の広い 3 廊式堂内の空間の高さは 2.70m、東側に 3 つの後陣が設けられている。北側部分は天井部が崩壊したため、後補。

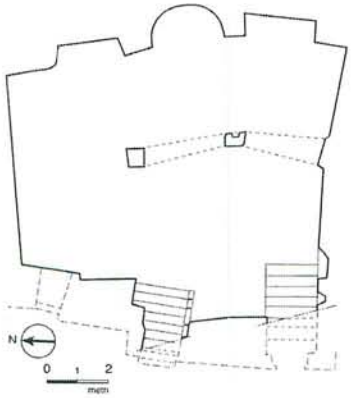
③壁画に対する所見

後陣側の壁面には「聖母子」や聖人像、司教像、「聖エリギウス」(蹄鉄工の守護聖人が描かれているのは、このあたりで家畜市が開かれていたため) など 17-18 世紀に描かれた多くの壁画が残されている。右側廊の壁面には 2 人の聖人が両側から大きな布を掲げた、図像学的にも興味深い 13 世紀の壁画がある。左右の 2 人が掲げる布には 3 つの円があり、その中に「磔刑」「復活」「笞打ち」が描かれ、2 人の足下には太陽と月がある。その下には 6 人の聖人たち、布の上方、中央にはキリスト、両側には天使が描かれており、このバッソ・サレンティーノ地方でも特異な図像形式である。

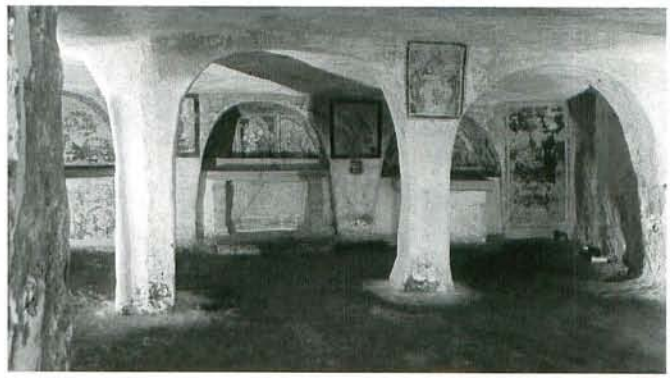
④保存状況

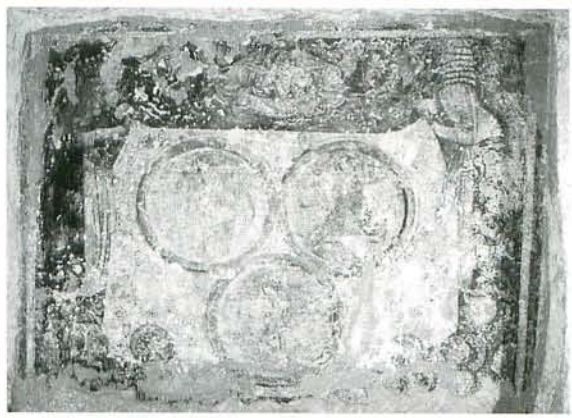
外からは整備されているかのように見えるのだが、堂内は異常なほど湿度が高く、換気が悪いため、空気がよどみ、壁面にはカビや苔が一面に生えている。近年修復されたとはいえ、壁画保存環境維持の対策が不十分なため、早くも壁画は危険な状態にある。

平面図



"Gli insediamenti rupestri medioevali nel Basso Salento"
Ed.Congedo, Galatina (Lecce) 1979　(写真撮影: 1972)





No.26	サンタ・マリア・デッリ・アンジェリ教会	Regione　州	Puglia
Pug.19	Chiesa di S.Maria degli Angeli	Comune　市町村	Poggiardo

①地理的位置

N 40° 3'12.6"/ E 18° 22'38.1"

ポッジャルドの旧市街地の中心に位置する。マトゥリチェ・ディ・サン・サルヴァトーレ教会前のジョヴァンニ・パオロ・セコンド広場に隣接したドン・ジョヴァンニ・ミンゾーニ通りの路上に設けられた電動式の蓋を開けると、地下に下りる階段が現れる。この洞窟教会は 1929 年、偶然に発見、発掘されたものである。

②建築に対する所見

路上に設けられた蓋を開けて階段を下りると、ややいびつではあるが、4 本の角柱が支える内接ギリシア十字型プランをもつ 3 廊式の空間が広がる。

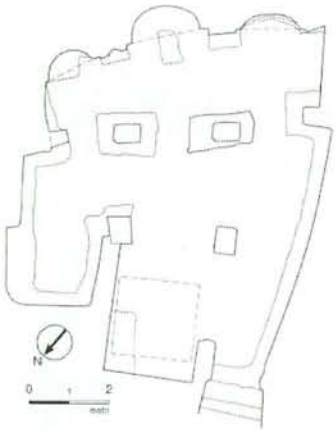
③壁画に対する所見

壁画は 13-14 世紀に描かれたもので、右壁面には「玉座のキリストと諸聖人」、後陣中央のアーチ壁龕には「聖母マリアと 2 人の大天使」、その左右には「聖ラウレンティウス」と「聖ステパノ」、左側の後陣には「大天使聖ミカエル」、その左には「聖コスママと聖ダミアヌス」、左の壁面には数人の聖人たちが並ぶ。身廊左には「聖母子と聖ニコラウス」が残る。また、角柱の周囲にも聖人たちが描かれている。

④保存状況

洞窟教会内に描かれていた壁画のすべてはローマ中央修復研究所によって、(上塗り漆喰ごと)スタッコ法で剥がされ、近くのパスクゥーレ・エピスコポ広場に 1975 年に建設された特設のアルド・モーロ博物館(Giardini-Museo Aldo Moro)内に現在も保存・公開されている。地下と比べて温度・湿度の調節管理が可能なため、壁画の保存状態は非常によい。館内の展示は地下聖堂と同じに再現されており、角柱の周囲に描かれた壁画も含め、すべての壁面の位置関係がほぼ忠実に配置してある。なお、壁画を剥がした後の地下聖堂は、道路下のため、鉄筋コンクリートの梁で天井を補強し、各壁面には復元壁画のパネルをはめて、当時の面影を残している。(見学可能)

平面図



No.27	サンタ・マリア・デル・カザーレ教会	Regione　州	Puglia
Pug.20	Chiesa di S.Maria del Casale	Comune　市町村	Brindisi

①地理的位置

N 40°　39'15.5"/ E 17°　56'5.9"

ブリンディジの北方 2 kmほどのカザーレ地区ルッジェーロ・デ・シモーネ通りに位置し、ブリンディジ空港の近くである。

②建築に対する所見

ターラントの君主であったアンジュー家のフィリッポ1世の命で、14 世紀初頭に建設された。ラテン十字型の平面プランをもつ教会で、正面ファサードの扉上に設けられた、切妻式で柱のない張り出し玄関が特徴的である。南側に隣接する修道院は、教会よりも少し遅れて 16 世紀に建設された。

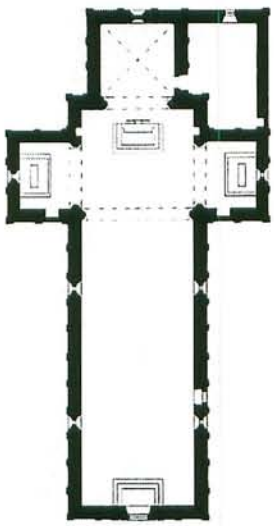
③壁画に対する所見

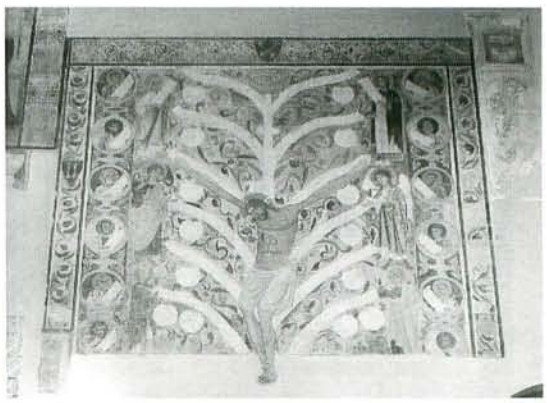
堂内すべての壁面に壁画が描かれているが、すべてが完全に現存しているわけではなく、断片化されているものも少なくない。ファサード裏側の広い壁面には、図像学的伝統にしたがって「最後の審判」が描かれているが、これは 14 世紀初めのリナルド・ダ・ターラントの筆になるものである。左壁には「生命の木」、右翼廊の礼拝堂右壁には「アレクサンドリアの聖女カタリナ伝」、南側には「聖女マリーナ」「大天使聖ミカエル」「聖ステパノ」「聖ラウレンティウス」「聖ラウレンティウスの殉教」。左翼廊には断片化した壁画がいくらか残っているのみ。左翼廊の角にある束ね柱の 2 本の円柱曲面には「トゥールーズの聖ルイ」と「聖パウロ」、後陣左右の壁面には「キリストの受難」、穹窿天井には「受胎告知」「神殿奉献」「三王礼拝」などの諸場面が描かれている。

④保存状況

1969-75 年にかけて教会の屋根と床面が修復され、2000 年の大聖年を機に正面ファサードの張り出し玄関を含む教会の外壁と内壁のすべて、したがって、内壁に描かれた壁画も同時に修復された。

平面図





No.28	マドンナ・デッラ・スカラ聖所記念堂	Regione　州	Puglia
Pug.21	Santuario della Madonna della Scala	Comune　市町村	Massafra

①地理的位置

N 40° 36'6.6"/ E 17° 6'45.5"

マッサーフラの町には大きな2本の峡谷が走っているが、西側のマドンナ・デッラ・スカラ峡谷沿いに位置する。マッサーフラの住宅街を抜けマルティーナ・フランカへの道を左に折れて進むと、峡谷を見渡せる広場に出る。ここから長い階段をジグザグに下りたところに、マドンナ・デッラ・スカラ聖所記念堂の正面入口がある。この峡谷に沿って洞窟住居の大きな集落があったとみられ、教会付近にはいくつもの水路や貯水槽などが見つかっている。

②建築に対する所見

この近くで発見された「聖母マリア」の壁画を納めるために1731年に建設された。主祭壇に祀られているのは、切り出された壁画の「聖母マリア」。その両脇には、壁画発見伝説にまつわる白い2頭の鹿の像が置かれている。

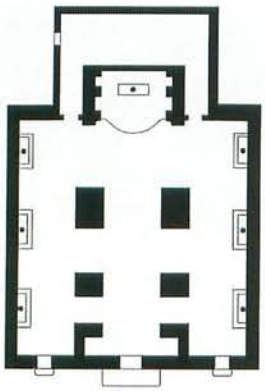
③壁画に対する所見

12-13世紀に描かれたこの「聖母マリア」は、もとは峡谷の凝灰岩を堀り抜いた洞窟教会内に描かれていた。伝説によれば、地震で教会が崩落、信仰を集めていた「聖母マリア」の所在もわからなくなって100年が過ぎようとする頃、1人の猟師が2頭の鹿に導かれるようについて行くと、大きな岩の前に出た。まるで祈るような姿をする鹿の姿を不思議に思い、その大岩をひっくり返したところ、「聖母マリア」の壁画が現れたという。したがって、主祭壇に祀られている壁画は、洞窟教会の曲面壁に描かれていた当時のままの断片である。

④保存状況

間近で見ることはできないものの、きわだって金彩模様がよく残っている。おそらくは壁画を主祭壇に祀った18世紀に、祭壇画としての輝きを求めて、金箔などの装飾を施したものと思われる。とくに中世壁画では黄色系の色は金色の代用であったから、本来は(金箔ではなく) オーカー色で模様や円光(ニンブス)が描かれていたと考えられる。保存状態はよい。

平面図



No.29	マドンナ・デッラ・ブオーナ・ヌオーヴァ教会	Regione　州	Puglia
Pug.22	Chiesa della Madonna della Buona Nuova	Comune　市町村	Massafra

①地理的位置

N 40° 36'6.6"/ E 17° 6'45.5"

マドンナ・デッラ・スカラ聖所記念堂に向かってすぐ右手の岩山に掘られた洞窟教会である。

②建築に対する所見

5-6 世紀に掘られた洞窟教会で、もとは 2 ないし 3 つの身廊があったとみられるが、マドンナ・デッラ・スカラ聖所記念堂が建設された際に変更された可能性が高い。

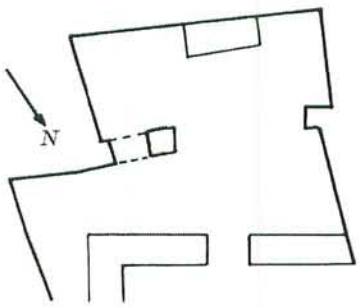
③壁画に対する所見

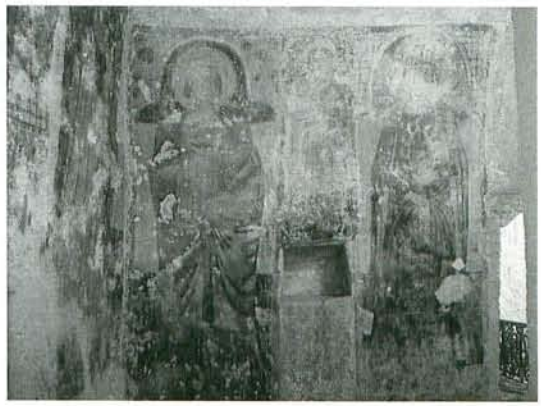
後陣の主祭壇にはマドンナ・デッラ・ブオーナ・ヌオーヴァと呼ばれる「聖母子」（13 世紀）がある。現在はマドンナ・デッラ・スカラ聖所記念堂の主祭壇に飾られている、偶然にも再発見された「聖母子」が地震で失われてしまった時、それに代わるものとして描かれたもの。この新たな「聖母子」には、よい知らせ（ブオーナ・ヌオーヴァ）があるようにとの願いがこめられている。左奥には「パントクラトールのキリスト」「聖女ルチア」「聖女カタリナ」などが描かれている。

④保存状況

1990 年にも同所を訪れたが、その時撮影した写真と比較すると、「聖母子」に大きな変化はない。しかし、空気の流通が悪く、湿度が高いせいか、左奥の狭い空間に描かれた「パントクラトールのキリスト」「聖女ルチア」「聖女カタリナ」などの一連の壁画は、(近年の修復を受けているはずであるが)一部の壁面に白い被膜(塩の結晶か)が認められる。

平面図





No.30	サンタ・マリーナ教会	Regione　州	Puglia
Pug.23	Chiesa di S.Marina	Comune　市町村	Massafra

①地理的位置

N 40° 35'14.3"/ E 17° 6'46.8"

マッサーフラの町には大きな2本の峡谷が走っているが、サンタ・マリーナ教会は東側のサン・ニコラ峡谷沿いの急な斜面に位置する。2つの峡谷の間にあるマッサーフラの旧市街地の南側に新市街地が広がっているが、その中心であるヴィットーリオ・エマヌエーレ広場からコルソ・イタリア（通り）を進み、ポンテ・ヴェッキオを渡って峡谷への階段を下りたところ。

②建築に対する所見

峡谷の斜面に掘られた洞窟教会で、幅 11m、奥行き 8.50m、高さ 4m の空間が3連アーチを支える大きな2本の(掘り抜いた)角柱で構成されている。3連アーチがイコノスタシスの役割を担っていたと思われるが、アーチ径(スパン)に対して天井高が不釣り合いに高いことから、後世に開口部を大きくすると同時に床面が掘り下げられた可能性もある。高い祭壇が設けられた刳り型の後陣が3つあり、中央後陣の奥行きがいくらか深い。

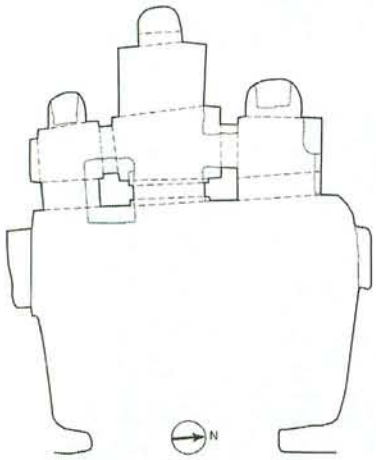
③壁画に対する所見

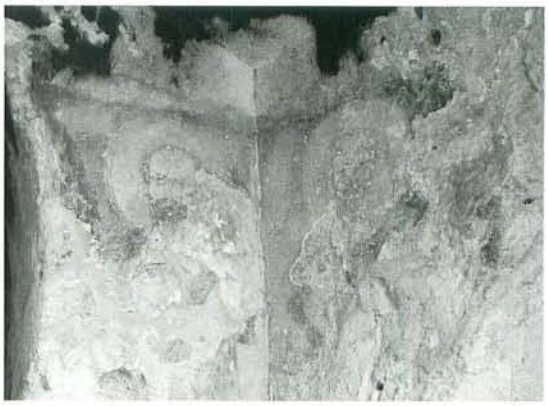
多くの壁画があったと思われるが、現在残っているのは入口すぐ左上と、その少し奥の2カ所に描かれた「聖女マリーナ」と2人の聖人像、「パントクラトールのキリスト」の断片のみである。そのほとんどが白い塩の膜に覆われてはいるが、早急に修復の手が入れば十分に色彩を回復できる。なお、壁画の制作年代は13世紀と考えられている。

④保存状況

峡谷に掘られた洞窟は入口が広いため、強い陽光も差し込めば風雨も容赦なく吹き込む。この現状は最悪の保存環境と言うほかない。天井の岩肌が真っ黒になっているが、これは上部から浸透してくる雨漏りを防ぐため、11世紀頃に松ヤニが塗られたためである。

平面図





No.31	サン・レオナルド教会	Regione　州	Puglia
Pug.24	Chiesa di S.Leonardo	Comune　市町村	Massafra

①地理的位置

N 40° 35' 39.8" / E 17° 7' 1.4"

2 つの峡谷の間にあるマッサーフラの旧市街地を北へ抜け、アパートなど新興の住宅が立ち並ぶフラッピエトリ通りから左へ入ったウンベルト・ジョルダーノ通りにある。洞窟教会の遺跡は、住宅街からは高い塀で囲まれて隔離されている。

②建築に対する所見

もともとは墓であった空間を拡張し、洞窟教会としたと考えられている。東西軸の身廊に対して横(南側)から入る入口が設けられていたが、現在は手前の壁と屋根、右側の後陣は崩落して現存しない。身廊は10.50m×8m。2本の柱が3つのアーチを形成し、聖堂内陣とを区切っている。

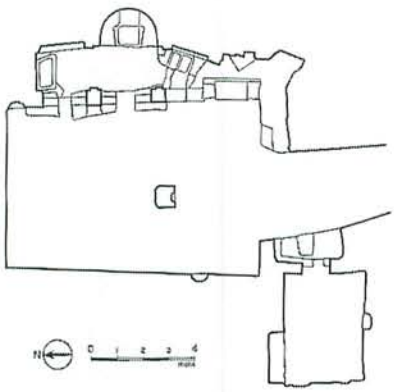
③壁画に対する所見

聖堂内陣と身廊を区切る2連アーチの開口部は、現在のように広く崩されてはおらず、当初は腰壁部分の中央に細い隙間を開け、上部を半月形にしていた。よく観察すれば、左右の腰壁部分に残存している壁画の断片を見ることができる。このイコノスタシスと考えられる仕切りの壁には「聖アンデレ」(断片)、「聖ペテロ」「聖ステパノ」「バーリの聖ニコラウス」、アーチの内側には「聖コスマス」「聖ダミアヌス」「聖アントニウス」「隠修士パウルス」、中央の後陣穹窿には「デエシス」(向かって左に聖母マリア、右に聖ヨハネ)が描かれている。壁画の制作は13-14 世紀頃のものと推定される。

④保存状況

1997 年に地元のライオンズクラブの支援で修復が行われたので、壁画の色彩は鮮やかに甦っている。地下聖堂周辺の排水はよく、堂内の床面も乾燥しているので、苔やカビの成育はまったく見られないが、手前の屋根が崩落したために身廊部は剥き出しで、このままでは吹き込む雨風を防げず、早急に対策を講じる必要がある。

平面図



No.32	サンタントーニオ・アバーテ教会	Regione　州	Puglia
Pug.25	Chiesa di S.Antonio Abate	Comune　市町村	Massafra

①地理的位置

N 40° 35'29.0"/ E 17° 6'41.3"

大聖堂近くのメッサピア通りに、かつて市民病院であったマッテーオ・パリアーリ病院がある。その建物の小さな入口から入り、病院の物置場であった空間を抜けて階段を下りると洞窟教会がある。なお、現在のサンタントーニオ・アバーテ教会は後に地上に建設された教会で、反対側のヴィットーリオ・ヴェネト通りから入る。

②建築に対する所見

10-11 世紀に凝灰岩を掘り抜いて建設された洞窟教会で、もともとは 2 つあった教会が 14 世紀に結合され、非常にシンプルな空間となった。幅は 12.50m。半円形の後陣があり、天井は平らである。壁に沿って壁龕や装飾窓縁がある。もとの入口は、メッサピア通りとムーロ通りの間にある水路に面した東側にあったと考えられている。

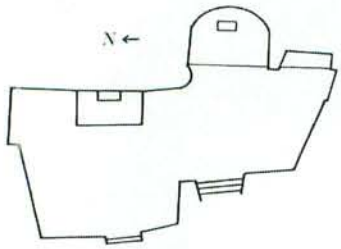
③壁画に対する所見

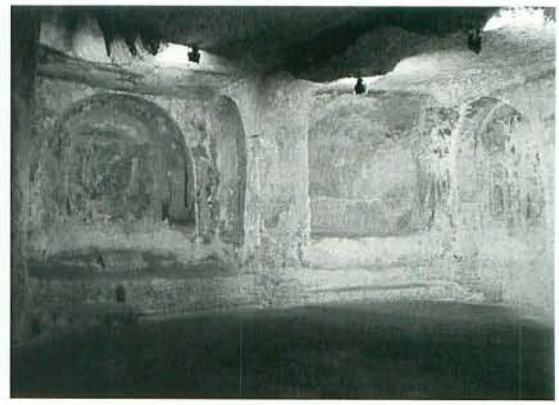
12 世紀から 15 世紀にかけて、すべての壁面に壁画が描かれたが、病院建設の際に大部分が傷んでしまった。聖ペテロと聖パウロの肖像が描かれた板絵を手にする「福者ウルバヌス 5 世」(14 世紀)、「聖大アントニウス」(17 世紀) などが比較的よく現存している。なお、後陣の左側壁に描かれている磔刑図のキリストのニンブス (円光) に無造作に引っ掻かれた十数本のインチジオーネ (光筋) がみられるが、その周囲にジョルナータ (漆喰の塗り重ね) を継いだと思われる形跡が斜光線調査によって判明した。(写真参照)　全体として 12-15 世紀と、異なる制作時期の壁画が混在しているため、制作年代の特定は容易ではないが、この磔刑図がブオン・フレスコ画法で制作されたかどうか、壁画はいつ制作されたかについて、「ブオン・フレスコ画法のルーツ研究」としては、慎重に調査を進める必要がある。

④保存状況

19 世紀末まではここで礼拝が行われていたが、その後放置され、病院の物置場として使われていたため、壁画の損傷は少なくない。しかし、地下聖堂そのものは外界から完全に遮断されており、堂内の湿度も高くないため、保存環境は万全というわけではないが、急激に状況が悪化することはないと思われる。

平面図





No.33	サンタンドレア教会	Regione　州	Puglia
Pug.26	Chiesa di S.Andrea	Comune　市町村	Palagianello

①地理的位置

N 40°　36'59.1"/ E 16°　58'26.8"

パラジャネッロの町の、北の外れにある。峡谷の斜面を掘り抜いた洞窟教会で、かつては峡谷側の入口から出入りできたのだが、教会周囲の凝灰岩を建築用の石材として無分別に切り出してしまったため、現在の教会は城壁の塔（高さ 10m）のように取り残されている。当然の結果、峡谷側からの出入りは不可能となったので、教会の裏手に広がるフェルッリ家の私有地の門から入り、果樹園を抜け、教会の裏側に新たに設けられた急な階段を上って中に入るほかない。

②建築に対する所見

教会周囲の側面には、ここを石切場とした際の石材の切り出し跡が無数に残っている。西側にあった入口は、高塔にぽっかりとあいた口のようになって危険なため、下方３分の１ほどが壁で塞がれて窓のようになった。こうしてナルテックス（拝廊）もまた、テラスのような空間となった。それに続く広い四角の空間には、かつて内陣を仕切る壁があったかもしれないが、後陣にあったはずの２つの壁龕も、後世、農作物の倉庫として使うために改築されて現在はみられない。なお、建築学的な類型からすると、本来の基本プランは、２つの後陣を備えた単一の大きな空間(バシリカ型)ではなかったかと考えられている。

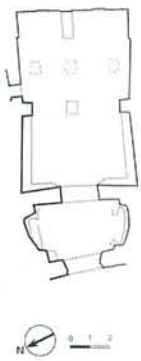
③壁画に対する所見

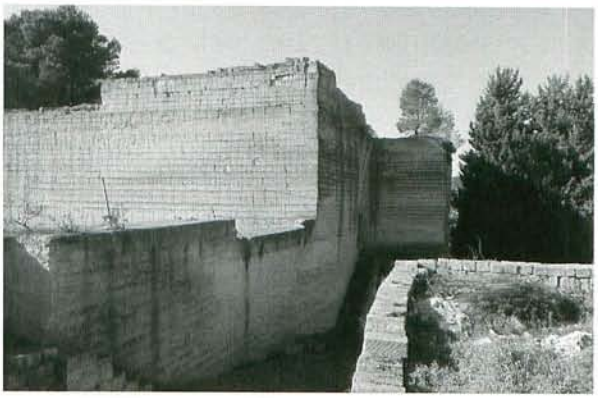
ナルテックスの東面には馬上の「聖ゲオルギウス」が描かれている。現存する壁画は、堂内北面の「聖ヴィート」（1590 年）と「聖ニコラウス」、南面の「聖母子」、この教会が捧げられた「聖アンデレ（サンタンドレア）」くらいで、それらの大半は13 世紀のものと考えられている。

④保存状況

南面の「聖母子」と「聖アンデレ」は、下方に欠損部分はあるものの、、現存している壁画の保存状態は悪くない。周囲の石が切り出され、結果として、「地下ではなく塔上の聖堂」になったことが幸いしてか、湿気からの害からは守られている。しかし、南面以外の壁画は、おそらく農作物の倉庫として利用する際に削り取られたりしたためか、断片化しているものが多い。

平面図





No.34	サン・ジェロラモ教会	Regione　州	Puglia
Pug.27	Chiesa di S.Gerolamo	Comune　市町村	Palagianello

①地理的位置

N 40° 37'1.0"/ E 16° 58'23.3"

北西から南東へと走っているパラジャネッロ峡谷の東側斜面に位置する。カステッロ（ステッラ・カラッチョーロ伯爵の館 17 世紀）からアンティコ・サントゥアーリオ通りを北へ進み、崖を下りた洞窟住居がもっとも密集した地域にある。

②建築に対する所見

洞窟が掘られたのは 12 世紀。現在下部が石積みの壁で塞がれている西側が、本来の入口であった。後世、農園の収穫物などを収める倉庫として使われるようになり、隣接する南側の部屋と連結するため、壁龕が壊されて通路が設けられた。台形の平面プランをもつ空間は、2 本の角柱が支える 3 連アーチによるイコノスタシスで内陣と仕切られており、内陣の床面は 30cm ほど高くなっている。高い祭壇をもつ後陣だけでなく、周囲の壁面にも多くの壁龕が設けられている。

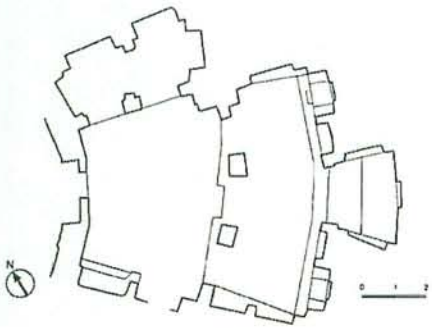
③壁画に対する所見

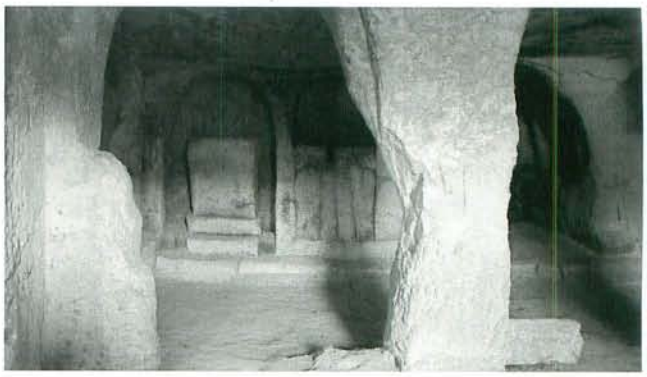
南面の壁龕に、この教会が捧げられた「隠修士 聖ヒエロニムス（サン・ジェロラモ）」像の頭部がかすかに残っている。内陣南面の奥の壁龕には男性像のシノピアが、またイコノスタシスの南側のアーチの下にもシノピアが残っていると言われているが、（シノピアを字義通りに下塗り漆喰上の下絵と定義すると）今回の調査では確認できなかった。壁画として比較的よく残っていると言われていた内陣北面の「聖母子」は急激に損傷が進んだのか、今回の調査時点では「聖母子」と認めるのがやっとであった。幼子イエスが聖母のあごのあたりを左手で触れようとしている構図からして、大胆かつ独創的な図像であったことがわかる。制作は 14 世紀末のものと推定されている。

④保存状況

すでに残存する壁画はほとんどなく、内陣北面の「聖母子」もすでに画像の認識すら難しい状況であり、辛うじて「隠修士 聖ヒエロニムス」像の頭部に残る勢いのある描線を保存したい。峡谷斜面にしては湿気は少ないが、奥まって空気の流通の悪い後陣部分の壁面を中心に苔などが成育している。

平面図





No.35	サンタ・ルチア教会	Regione　州	Puglia
Pug.28	Chiesa di S.Lucia	Comune　市町村	Palagianello

①地理的位置

N 40°　37'0.5"/ E 16°　58'19.1"

北西から南東へと走っているパラジャネッロ峡谷の西側の斜面に位置する。パラジャネッロの町の反対側にある高台から、急な崖を下りた林の中にある。

②建築に対する所見

洞窟教会入口の小さなルネッタには十字が刻まれている。東西の長軸に対して横(南側)から身廊部に直接入る。堂内は3つの空間に分かれ、入口を入ったところがナルテックス(拝廊) で、そこから右へ進んだ東奥に半円筒型ヴォールトの後陣が設けられている。奥行き 4.10m、幅 9.20m。初期キリスト教時代に掘り抜かれた単純空間の教会が、ビザンティン様式時代に東(右)方向に拡張され、後陣が設けられたと考えられている。

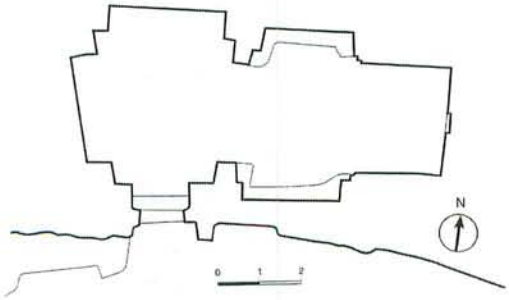
③壁画に対する所見

壁面に壁画が描かれていたのは事実で、ごくわずかだが壁画の断片が数カ所にみられる。現在は、いつの時代のものかは不明だが、刻まれた無数の文字や十字架が岩肌に残っているのみである。

④保存状況

教会入口扉に取り付けられていた鉄格子もはずれ、いかなる意味でも管理されている状態ではない。壁画としては前述のようにほんの僅か、聖人の衣服の装飾であったと思われる壁画断片が数カ所に残るのみで、堂内の壁画群がどのような図像学的構成であったかなど、まったく不明である。もはや、断片をスタッコして博物館などで資料として保存するほかないであろう。

平面図



No.36	サン・ニコラ教会	Regione　州	Puglia
Pug.29	Chiesa di S.Nicola	Comune　市町村	Palagianello

①地理的位置

パラジャネッロの峡谷は、町の西側を北西から南東へ向かって走っているが、サン・ニコラ教会は峡谷の南側で、町から約700m離れたガッレオーネ農園近くに位置する。現在は、教会まで直接に行く道はないので、峡谷の河原（谷）を横切り、斜面を少し上ったところの入口から（仮設の半壊した階段を）下りる。

②建築に対する所見

現在の教会は穴の底といった印象で、凝灰岩に掘られた「穴の教会」に入るには、鉄パイプを組んだ工事現場用の仮設階段を下りるしかない。穴の底、つまり堂内の空間は台形の平面プランをもつ小さな空間で、入口となっている西側以外の三方の壁面には壁龕が設けられており、東側の壁龕を後陣としている。おそらく埋葬のための私的礼拝堂として建設されたものが、やがて教会として使われるようになったものと考えられており、床の墓からは 1311 年～1444 年までのコインが発見されている。

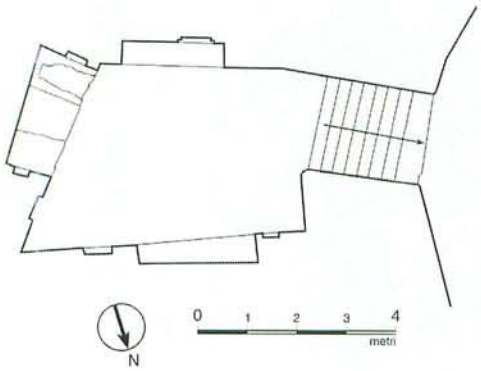
③壁画に対する所見

壁面や壁龕には、13-14 世紀に描かれた質の高い壁画が残っている。東側に位置する後陣の壁龕には「聖母マリア」「パントクラトールのキリスト」「聖ニコラウス」、その左側に「聖ペテロ」、南側の壁龕には「聖マッテヤ」、その右側には「玉座のキリスト」が大きく描かれていたらしいが、現在では玉座の左端と赤いマントの一部が認められるのみで、威厳あるキリストの姿は失われている。

④保存状況

きわめて劣悪な環境にもかかわらず彩色は比較的よく保存されているが、穴の底は常に湿気っており、壁面下部には苔の繁殖がひどい。ことに完全に雨ざらしとなっている南面の「玉座のキリスト」（階段わき）が消失したのは残念である。

平面図



No.37	近年発見された教会	Regione　州	Puglia
Pug.30		Comune　市町村	Grottaglie

①地理的位置

N 40° 31'59.4"/ E 17° 25'52.4"

旧市街地の南東にあるカステッロ・エピスコーピオ（14 世紀に建設されたターラントの司教館）近くのクレスピ通りにある。陶器店（Bottega Vestita）の主人が最近購入した家を、3 年前に改築したところ、地下の台所にあったパン焼き窯の背後から中世洞窟教会の祭壇が現れた。

②建築に対する所見

凝灰岩を掘り抜いて作られた小さな洞窟教会で、中庭から階段を下りて直接身廊部に入る。現在は長軸に対して横から入ることになるが、当初のプランはわからない。相当に後世の改築の手が加えられていると思われるからである。ただ、パン焼き窯は不思議なことに 1 度も使われた形跡がなく、何らかの理由で壁龕の壁画を隠すために設けたのではないかと、所有者の陶器店主は語っている。3 つの壁龕の仕切り柱には螺旋の刻み模様があり、天井には丸枠にギリシア十字のレリーフが浮き彫りにされている。

③壁画に対する所見

3 つの壁龕の中央には「パントクラトールのキリスト」、左側は「聖ニコラウス」、右側は「聖女バルバラ」が描かれている。保存状態は奇跡的によく、彩色も非常によく残っている。とくに「聖ニコラウス」に斜光線を当てると、顎髭を含む顔や眼の輪郭に（慎重に描写するための下描きとして）インチジオーネ・ディレッタの鋭い引っ掻き線がはっきりと現れ、ルネサンスのフレスコ画法に向かう壁画技法の展開上きわめて興味深い。

④保存状況

文化財の保存に深い関心を示す所有者（陶器店主）の管理がよく、発見されてまだわずかに 3 年ということもあるが、壁画の保存状態はベストコンディションにある。ただ、早急に本格的な調査研究と撮影記録を実施すると同時に、換気や除湿、照明などの恒常的な保存環境を整えるべく専門家の指導を受けるべきである。

No.38	サンタンジェロまたはカザルピッコロ教会	Regione　州	Puglia
Pug.31	Chiesa di S.Angelo o Casalpiccolo	Comune　市町村	Grottaglie

①地理的位置

N 40° 31'16.0"/ E 17° 26'15.4"

グロッターリエから南のサン・マルツァーノ方向へ約1㎞のカザルピッコロ（あるいはペンツィエーロ）峡谷にある。峡谷の河原(水の涸れた谷)をさかのぼり、近年建設された鉄橋の下をくぐって凝灰岩の岩山を上ったところに洞窟教会がある。

②建築に対する所見

教会の長軸に対して横から直接身廊部に入る構造であったが、手前の身廊部の天井が半分ほど崩落したため、同じ凝灰岩を積み上げて応急の壁で開口部を塞ぎ、堂内を保護している。19世紀末の資料によると、後陣を備えた長方形の空間には3つの入口があったという。周囲の壁面には10の壁龕が設けられている。

③壁画に対する所見

記録によれば、壁面は14世紀に描かれたすばらしい「キリスト伝」で飾られていたはずだが、現状はカビや苔などがほぼ全壁面を覆い、高湿度のために漆喰の剥落も激しく、壁画が描かれていたという痕跡しかわからない。よく観察すると多少の彩色が残る壁画の断片が確認できる。直線を引くため壁面に押しあてた縄目跡が残っていることから、往時はしっかりした構成の壁画が描かれていたと推測される。文献資料によれば、教会献堂の年を示す「1392」という数字もどこかに記されていたはずだが、見つけることはできなかった。

④保存状況

非常に悪い。数十年前に撮影した写真ではかなり残存している壁画が確認できるため、おそらくは身廊部の天井崩落が原因で、急激に消失してしまったと思われる。

No.39	グラヴィーナ・ディ・リッジョ東教会	Regione　州	Puglia
Pug.32	Chiesa in località Gravina di Riggio este	Comune　市町村	Grottaglie

①地理的位置

N 40° 33'52.8"/ E 17° 24'27.4"

グロッターリエの北側を走るリッジョ峡谷を挟んで東西に向かい合った2つの洞窟教会があるが、この教会は東側の急な斜面を掘り抜いたもので、「東教会」と呼ばれている。「サン・サルヴァトーレ教会」であったという説もあるが、定かではない。農家の所有地となっており、農家から崖下に向かって急な斜面を下りたところにある。

②建築に対する所見

峡谷に面した入口部分は大きく崩落し、ぽっかりと大きな長方形の穴が開いており、奥に2つの刳り型後陣をもつ長方形の空間（幅約7m、奥行き約5m、高さ約3.5m）が広がる。教会建築右側の、少し小振りな後陣には(後陣を刳りぬいた時にあらかじめ掘り残した)祭壇がある。また、教会の天井のほぼ中央部分に、ドリルで掘削したような直径約50cmの垂直な穴が(約2m上の)崖上まで突き抜けているが、理由は不明である。現在の崖上に上院があって連結していたものか、いずれかの時代に農民が(洞窟教会を納屋か貯蔵庫として利用していたとすれば)貯蔵庫から何かを引き上げるために掘削したのかもしれない。

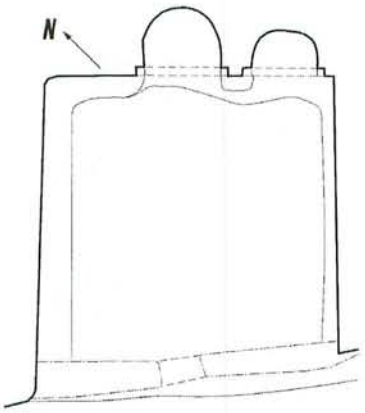
③壁画に対する所見

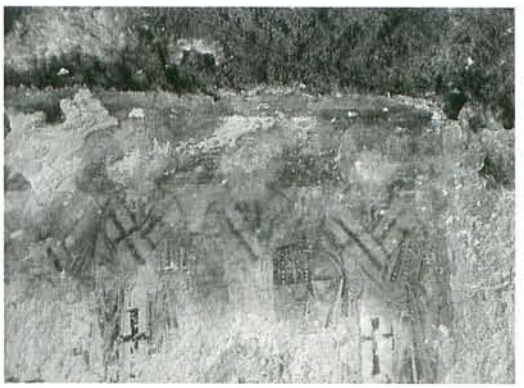
堂内には10世紀頃に描かれた壁画の断片が残っている。右側の後陣には「聖アンデレ」、左の祭壇には「パントクラトールのキリスト」、右壁面の上部には、赤い枠で縁取られた「居並ぶ7人の司教」が見られる。ほとんどの壁画は2層になっていて、その下にも（さらに古い時代に描かれた）壁画があったことがわかる。

④保存状況

峡谷に面したテラス状の狭いスペースに位置する洞窟教会の正面部がすべて崩落したため、堂内は剥き出し状態で乾燥してはいるが、陽光、風雨、鳥などの生物には無防備で早急に対策を講じる必要がある。

平面図





No.40	ファヴァーナ地下聖堂	Regione　州	Puglia
Pug.33	Cripta della Favana	Comune　市町村	Veglie

①地理的位置

N 40° 20'38.2"/E 17° 57'38.6"

ヴェーリエの北の郊外、コンヴェント通りにフランチェスコ会の修道院がある。修道院の教会や墓地に入る手前の広場に、地下聖堂へ下りる階段を石で囲った入口がある。

②建築に対する所見

凝灰岩盤に掘られた9世紀に遡る地下聖堂で、聖母マリアに捧げられている。古代ギリシアの墓の地下通路を真似て、地下への階段は13段である。ほぼ東側に後陣1つを備えた単廊式の小さな空間で、東西の奥行き 5.50m、南北の幅 3.30m、天井高は2.20m である。

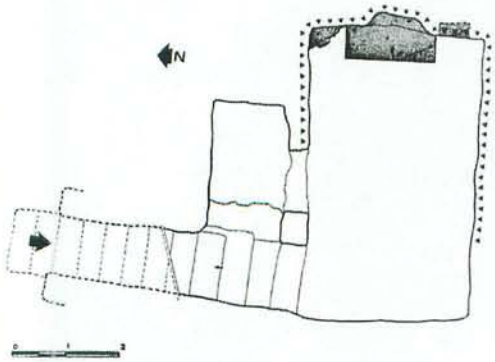
③壁画に対する所見

天井を含め、堂内すべての壁面に描かれている。14-15 世紀にさかのぼる壁画形式(2 形式の共存)から、ここで行われていた儀式がギリシア(ビザンティン)式からラテン式へ移行する時期の制作だとわかる。後陣の壁龕には「三位一体」、その右側に「聖フランチェスコの聖痕拝受」、左側には「福音書記者聖ヨハネ」、続く北面には「アッシジの聖フランチェスコ」「パドヴァの聖アントニオ」というラテン(西ローマ)で信仰された聖人たち、反対側の壁面には「大天使聖ミカエル」「聖ステパノ」「聖アンデレ」「隠修士聖アントニウス」などギリシア(ビザンティン/東ローマ)で信仰の篤かった聖人たちが描かれている。天井画も含めてトータルに計画された図像構成という点で重要な壁画であり、まだまだ図像解釈研究の余地がある。

④保存状況

本格的に修復される前の 1990 年に訪れた時は、高湿度のために細かな水滴が壁一面に付いていて、照明を当てると光った。その後の修復で地下聖堂は整備されたはずであるが、照明設備のみで除湿設備がないために相変わらず湿度が高く、壁画の保存状況は根本的に改善されてはいない。部分的に損傷は拡大している。

平面図



No.41	サンタ・マリア・ディ・チェッラーテ教会	Regione　州	Puglia
Pug.34	Chiesa di S.Maria di Cerrate	Comune　市町村	Lecce

①地理的位置

N 40° 27'30.8″/ E 18° 6'56.7″

レッチェからブリンディジ方向へ高速道路を約 13km 進み、スクイツァーノからトッレ・リナルダ方向へ約 4km のやや高台に位置する。

②建築に対する所見

12 世紀初めにノルマン朝のシチリア王タンクレディ(一説には大叔父のボエモンド) の命で創設されたと言われる。そこは狩りで鹿を射止めようとした時、角の間にマリア様が現れた場所とされ、そのためにチェッラーテ(Cerrate)またはチェルヴァーテ(Cervate: cervo=鹿)と呼ばれる。中央に小さなバラ窓(内部の透かし彫りは欠損)をもつシンプルなファサードには、ロマネスク彫刻で飾られた柱廊式玄関が張り出している。教会は 2 本の列柱で仕切られたバシリカ型の 3 廊式で、内陣にはキボリウムで覆われた主祭壇置がある。左側面に張り出したロッジャ(列柱回廊)が特徴的である。基本的にはロマネスク様式の面影を色濃く残してはいるが、ゴシック様式、バロック様式で改築されている。(1971-83 年、全面的に修復。)

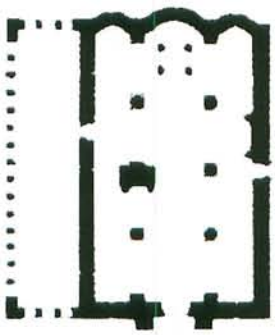
③壁画に対する所見

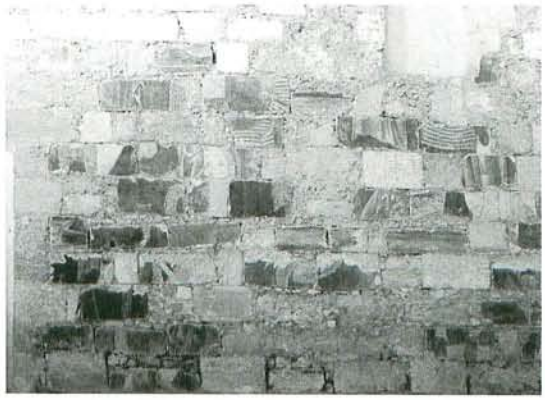
当初は堂内の全壁面に描かれていたと思われる。後陣中央は「栄光のキリストと諸聖人」で、13 世紀末から 14 世紀初めのもの。堂内の壁画は何度か描き直されており、右側廊に設けられたバロック様式の祭壇の枠の中には、その下にあった壁画の断片が見られる。また、右側廊の壁面には、改築の際に壁の石を積み替えたため、当初の図柄がばらばらになった部分が露出している。左側廊の壁面には、壁画を剥がした際に下から現れた古い壁画がある。その壁面には、漆喰を塗り重ねるために鑿で穿った無数の穴があいている。上に描かれていた 15-16 世紀の壁画 (「受胎告知」「聖ゲオルギウス」「聖母の死」) は剥がされて、隣接する博物館(旧搾油室) に展示されている。

④保存状況

荒廃した教会は農民たちの共同作業場として使われていたが、プーリア州文化財監督局は 1965 年から 10 年の歳月をかけて教会や修道院を修復・整備したため、保存状態は非常によい。

平面図





《主要参考文献》

・Aldo Messina & Franco Dell'Aquila, *Le Chiese Rupestri di Puglia e Basilicata*, Mario Adda Ed., Bari, 1998

・Antonio Chionna, *Gli insediamenti Rupesri della Provincia di Brindisi*, Schena Ed., Fasano, 2001

・Comitato organizzatore della pro-loco di Massafra, *Chiese Cripte e Insediamenti Rupestri del Territorio di Massafra*, Ente provinciale per il turismo, Taranto,1966

・Comitato organizzatore della pro-loco di S.Vito dei Normanni, *Chiese, Cripte e Insediamenti Rupestri del Territorio di S.Vito dei Normanni*, Schena Ed., Fasano, 1968

・C.D.Fonseca ed altri, *Gli Insediamenti Rupestri Medievali nel Basso Salento*, Galatina Congedo Ed., Galatina, 1979

・Francesco Abbate, *Storia dell'Arte nell'Italia Meridionale*, Donzelli Ed., Roma, 1997

・Mario Parise, Salvatore Inguscio, Aurelio Marangella, *Atti del 45° Corso CNSS-SSI di III livello di Geomorfologia Carsica*, Litografia Ettorre, Grottaglie, 2008

・Roberto Caprara, *Palagianovecchio, Palagianello, Palagiano*, Tipografia Piccolo Crispiano, Palagianello, 2010

・Teodoro Pellegrino, *Santa Maria a Cerrate*, Capone Ed., Lecce, 2004

・A.A.V.V., *Puglia*, Touring Club Italiano, Milano, 1978

・Lorenzo Rota, Franco Conese, Mario Tommaselli, Matera Storia di una città, BMG Matera Ed., Matera, 1990

1990 年夏、私（宮下孝晴）が鹿島美術財団の研究助成を受けて南イタリアの中世壁画群を調査してから 20 年以上が過ぎた。本プロジェクトの現地調査で再訪し、思いがけずに懐かしい壁画と再会できたことは感動というより運命を感じる。抗いがたい時の流れに見る影もなく風化してしまったもの、幸運にも修復の手が差しのべられて環境が整備されたもの、応急手当の修復を受けたものの相変わらず劣悪な環境に苦しんでいるものなど、壁画の運命も人間同様である。苦悩する壁画の救済までにいたらずとも、本プロジェクトは「そこに壁画が存在した記録」だけは残したい。

懐かしい思い出をたぐり寄せたついでに、2010 年からスタートした「南イタリアの洞窟教会に描かれた中世壁画群の診断調査プロジェクト」の契機となった 20 年前の研究報告書『鹿島美術研究』の冒頭部分を以下に引用しておく。そして、これに続くカラーページでは洞窟教会に描かれた壁画の「現在（2012 年）と過去(1990 年)」を対比してみる。

南イタリア(プーリア地方)における中世壁画の研究

研究者: 金沢大学教育学部 助教授　宮下孝晴

平成 2 年度の鹿島美術団の助成金を受けて、パドヴァのスクロヴェーニ礼拝堂におけるジョットの壁画技法の現地調査を実施したことを契機として、フレスコ画（buon fresco）の完成に至る中世の壁画技法史に強い関心をもちました。

その後の予備調査で確認できたことは、ジョットを生んだ中部イタリアのトスカーナ地方でさえ、技法的にはアドリア海沿岸地方を経由してのビザンティン美術の濃厚な影響を受けているということでした。たとえば、ピストイアのサン・ドメニコ教会にある「磔刑図」は，現在のところブオン・フレスコ画の技法を認識した上で制作された最初の壁画（1275-80 年制作：金沢大学 大学教育開放センター紀要 11 号で論考）ですが、これは図像学的にも様式的にも（トリエステに近い）アクイレイア大聖堂内のクリプタに描かれた「傑刑図」（12 世紀後半）と類似しています。時代と距離の隔たりを越えて、両者には密接な関係があることは事実です。5 世紀以来、ビザンティン美術の間断的な影響を受けたアドリア海沿岸における中世壁画の系譜に関する全体像を描かないかぎり、ジョットに到達することは不可能です。

しかし、予備調査の結果、アドリア海沿岸地方で最も多くの中世壁画をのこしているプーリア州では（アドリア海沿岸ではありませんが、カンパーニア州でも）、修復保存の予算の関係から、1960 年代に学術的な調査が行われたものの、大半は荒地の中に放置されたままの状態にあることがわかりました。第 2 次大戦でベネディクト修道会の総本山であるモンテカッシーノが消失、貴重な歴史文化資料が失われたことは惜しまれますが、その影響下に制作されたイタリア最大のロマネスク壁画の傑作サンタンジェロ・イン・フォルミスでさえ、修復保存の対策は遅々として進んでいない状況なのです。【註：現在は修復完了】

カンパーニア、バジリカータ、プーリアの南イタリア 3 州は 10 世紀前後の中世壁画の宝庫でありながら、系統的な調査研究も進められず、保存対策もほとんど立てられていません。スタッコ法ないしストラッポ法などで壁画を剥がして博物館に保管されているものは 1%程度で、その博物館自体の保存環境も不完全であることを実見すれば、中世の壁画保存への危惧はいやが上にも高まります。また、洞窟教会の壁画は必ずといってよいほど 2～3 回は上から漆喰を塗って描き重ねられていますから、それ自体が歴史の重層です。修復保存の際に漆喰層を順番かつ慎重に剥がしていけば、より古い壁画を発見できます。壁画(技法・図像)様式や信仰形態の歴史的重層性という点でも、南イタリアの洞窟教会に描かれた中世壁画群は貴重な史料であることを強調しておきたいと思います。　　引用：『鹿島美術研究』平成 6 年度(年報第 11 号別冊)

リッジョ峡谷　グロッターリエ

グラヴィーナ・ディ・リッジョ東教会に描かれた2層の壁画断片

↑2011 年撮影

↑1990 年撮影

ファヴァーナ地下聖堂入口 ヴェーリエ

20 年前は修復中であったが、現在は整備されている。

↑2011 年撮影

↑1990 年撮影

「聖痕拝受」ファヴァーナ地下聖堂 ヴェーリエ

剥落が激しく、聖フランチェスコの表情はわからなくなってしまった。

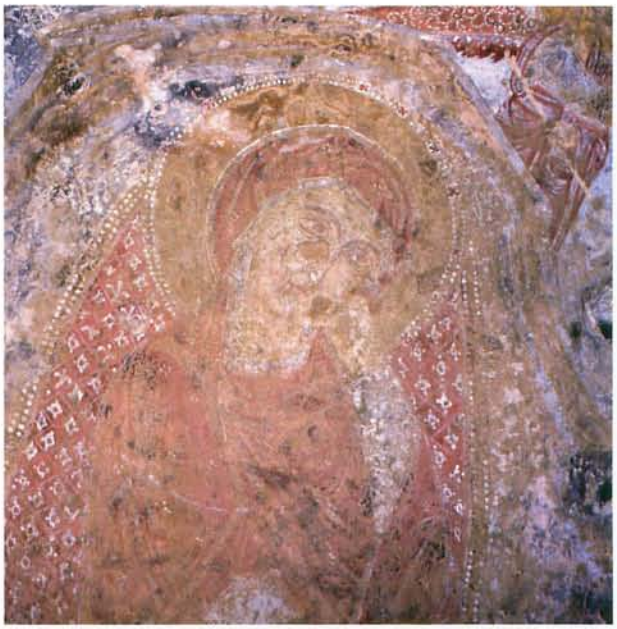
↑2011 年撮影

↑1990 年撮影

サン・ビアジョ教会堂内 サン・ヴィート・デイ・ノルマンニ

2001 年に壁画の修復を行うとともに、床面からの湿気を防ぎ、空気の流通をよくするため堂内が整備された。

↑2011 年撮影



↑1990 年撮影

「生誕」（部分）サン・ビアジョ教会 サン・ヴィート・デイ・ノルマンニ

2001 年の修復で、くすんでいた色彩が蘇った

↑2011 年撮影　「パント・クラトールのキリスト」　↑1990 年撮影

マドンナ・デッラ・ブオーナ・ヌオーヴァ教会 マッサーフラ

室内の湿度は低く、カビなどは発生していないが、20 年間に壁画はかなり剥落してしまった。

↑2011 年撮影　「聖女ルチア」（奥）「聖女カタリナ」（右端）　↑1990 年撮影

マドンナ・デッラ・ブオーナ・ヌオーヴァ教会　マッサーフラ

近年の修復で「聖女ルチア」はかなり見えるようになったが、

「聖女カタリナ」（右端）の顔は新たに吹き出した塩類の結晶で覆われてしまった。

MASSAFRA

Chiesa della Madonna della Buona Nuova
Santuario della Madonna della Scala
(N 40°36'6.6" E 17°6'45.5")

Chiesa di San Leonardo
(N 40°35'39.8" E 17°7'1.4")

Chiesa di Sant'Antonio Abate
(N 40°35'29.0" E 17°6'41.3")

Chiesa di Santa Marina
(N 40°35'14.3" E 17°6'46.8")

iPad で壁画の色情報を瞬時に簡易解析

iPad で壁画空間を
360° パノラマ画像として記録

VEGLIE

異なる調査の視点から観察し、
記録する

MASSAFRA

ミーナさんの解説に耳を傾ける

年代推定や壁画に対する図像解釈など、
本物を前にして議論に熱が入る

パラジャネッロのサンタンドレア教会にて

PALAGIANELLO

GROTTAGLIE

3 年前に発見された教会にて
所有者(左)とグロッターリエ市長(中央)